

## 特定鳥獣の保護・管理に係る研修会（ 上級編(カワウ) ） 研修資料

この研修資料は、下記の研修のために使用されたものです。

そのため、情報が古い場合があります。

また、Web での掲載のために一部修正や削除、構成の変更をしているものがあります。

---

## 平成27年度特定鳥獣の保護・管理に係る研修会（ 上級編(カワウ) ）

対 象: 都道府県の鳥獣行政担当者、水産行政担当者、内水面漁業関係者、その他カワウ  
の保護管理、調査、被害防除に関わる者

開 催 日: 2015年11月11日(水)～11月13日(金) 2泊3日

場 所: 愛知県自治センター、愛知県弥富野鳥園

講師と科目: 熊田那央(カワウの生態と最新の生息状況)

: 石田朗(愛知県のカワウの生息状況の変化)

: 亀田佳代子(海外のウ類の生息状況の変化)

: 坪井潤一(なぜモニタリングが必要なのか)

: 山本麻希(計画作りのための予算の獲得)

: 加藤洋(ねぐら・コロニーでの調査方法)

野 外 実 習: カワウのコロニーとゾーニング対策の視察、ひも張り実演、ねぐら入り個体数カウント

実 習 指 導: 石田朗、坪井潤一、伊藤元季(弥富野鳥園 所長)

室 内 実 習: グループワーク: 地域の課題の整理

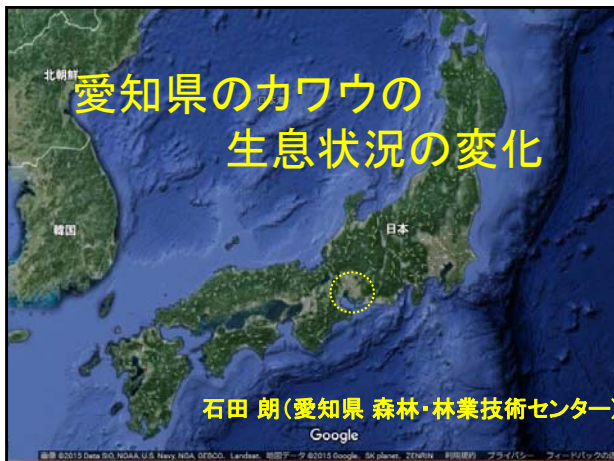
実 習 指 導: 山本麻希、石田朗、亀田佳代子、坪井潤一、加藤洋、加藤ななえ、熊田那央

---

## 愛知県のカワウの生息状況の変化

石田朗（愛知県森林・林業技術センター）

1. 愛知県でカワウの生息状況を把握するためにやっていること
  - ・カワウのねぐらやコロニーを見つける
  - ・ねぐらやコロニーで個体数を数える
  - ・コロニーで営巣数を数える
  - ・餌場への飛来状況を見る
  - ・カワウの移動状況を見る →これらのデータを使って、被害対策を考える
2. カワウの生息地としての愛知県の特徴
  - ・大きな内湾と遠浅の海・・・伊勢湾、三河湾、表浜（太平洋岸）
  - ・多くの河川・・・木曾川、矢作川、豊川など
  - ・盛んな農林水産業・・・平野部のため池、沿岸部の養魚池がカワウのねぐらになる→多様な水辺の環境や人の活動がカワウの生息に影響
3. 時間軸でみた愛知県のカワウの生息状況
  - ・カワウとの共存共栄の時代（100年以上）  
知多半島「鵜の山」で1839（天保10）年頃～1966（昭和41）年  
→採糞、その後も観光事業は継続（佐藤、1996）
  - ・カワウ減少期の数少ない生息地  
多くの地域でカワウがいなくなった1970年前後  
→知多半島「鵜の山」にカワウ生息（2,000羽で当時最大）（愛知県、1983）
  - ・他地域に先駆けて個体数が増加  
1980年代から有害駆除が始まる。
  - ・個体数増加に転じて50年近く経過  
個体数は頭打ちになってきている。コロニーは大規模なものが減り、小規模なものが多い。  
近年の駆除数は1,000羽前後で推移。



### カワウの生息地としての愛知県①

- 大きな内湾  
伊勢湾・三河湾
- 遠浅の海  
内湾+表浜
- 多くの河川  
木曾川・矢作川・豊川
- 盛んな農林水産業  
平野部のため池  
沿岸部の養魚池

→多様な水辺の環境や人の活動が生息に影響

### カワウの生息地としての愛知県②

- カワウとの共存共栄の時代(100年以上)  
知多半島「輪の山」で1839(天保10)年頃~1966(昭和41)年  
→探養、その後も観光事業は継続 佐藤(1996)
- カワウ減少期の数少ない生息地  
多くの地域でカワウがいなくなった1970年前後  
→知多半島「輪の山」にカワウ生息(当時最大)
- 他地域に先駆けて個体数が増加  
1980年代から有害駆除が始まる
- 個体数増加に転じて50年近く経過  
→現状は? 個体群管理の方向性は?  
→生息状況の変化とともに  
人とカワウの多様な関係が見られる

### 愛知県でカワウの生息状況を把握するためにやっていること

- カワウのねぐらやコロニーを見つける
- ねぐらやコロニーで個体数を数える
- コロニーで栄養数を数える
- 餌場への飛来状況を見る
- カワウの移動状況を見る

※県、漁協、野鳥の会、大学、その他多くの方々がカワウの調査に関わってきた。

### 1. カワウのねぐらやコロニーを見つける



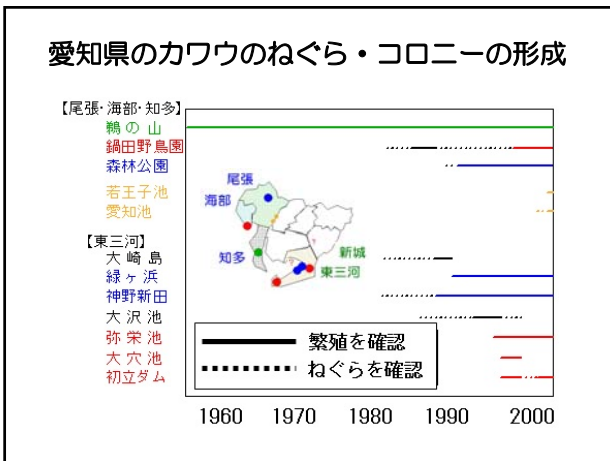
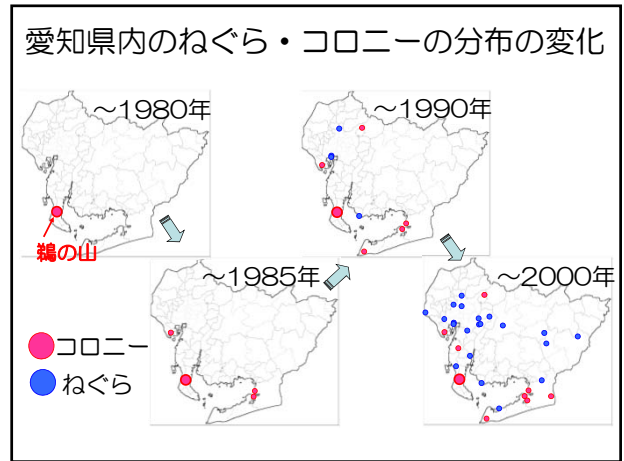
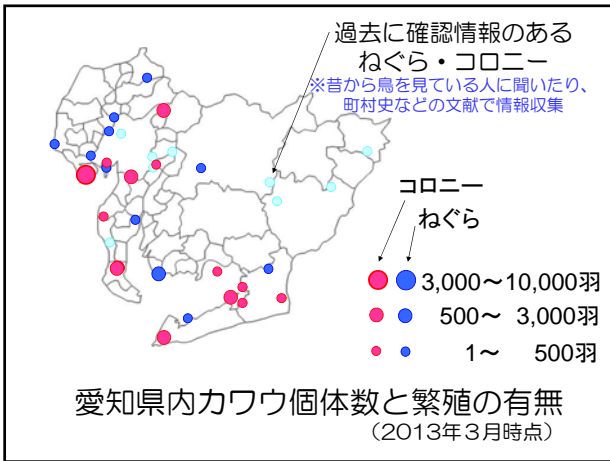
- 朝カワウが飛んでくる方向、夕カワウが飛んでいく方向に注意する。  
こちらには、ねぐらはないはずだけど・・・
- 地図で水辺にある緑地を確認
- 現地に行ってコロニー確認
- 近所の人にいつ頃からいるか聞き取り  
現地の人は知っている

- 調べていることがわかれば、教えてもらえる  
植物採集の人、釣り好きの人、etc
- カワウではないですが・・・  
ホームページを活用したカワウの目撃情報収集システムを構築する方法もある。

【入力画面】

愛知県で試行中のシカとその被害目撃情報収集システム

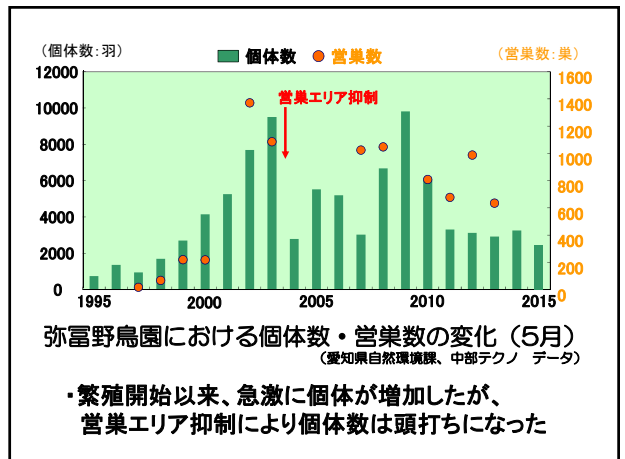
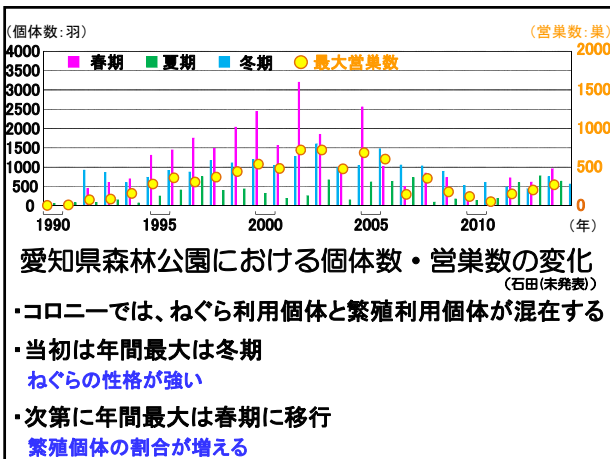
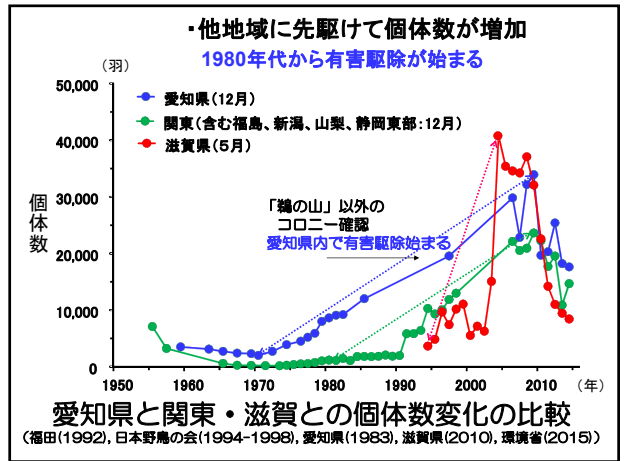
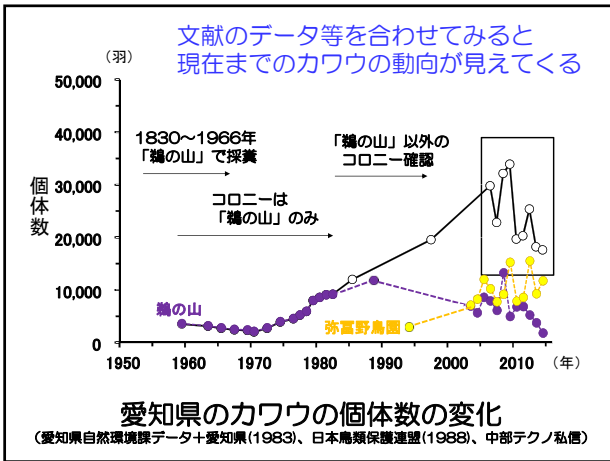
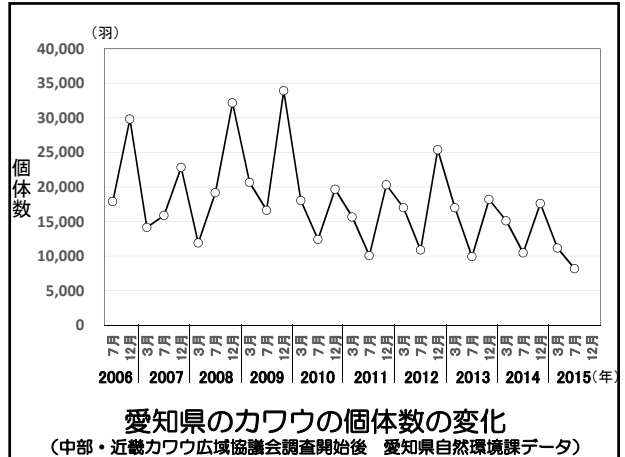
【結果表示画面】



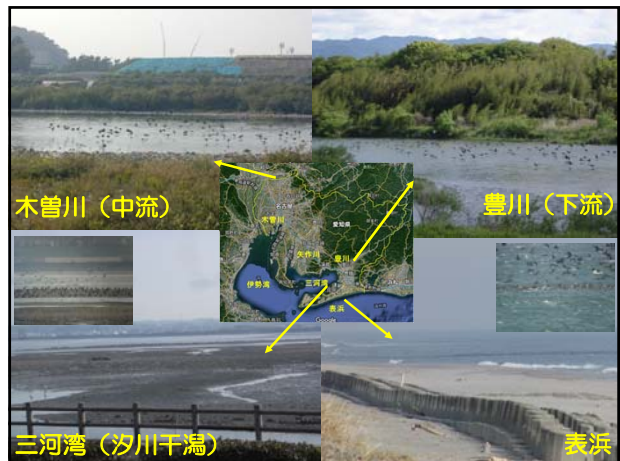
ねぐら・コロニーの分布変化から  
わかったこと、考えられること

- コロニーは、ねぐらから始まる
- 県や地域で最初にコロニーができる場所は、個体数増加の起点となる  
おかあさんと子供、孫の関係  
良好な餌場&攪乱のない水辺の林
- コロニー成立の順番は、条件の良さや分布拡大の流れ（他地域からの増加圧）を表している？  
追い出し難さの順とも考えられる  
→対策を考える上で考慮すべき点
- コロニーは、大規模・少数から小規模・多数へと推移  
一度追い出されても復活することが多い

- 2. ねぐらやコロニーで  
個体数を数える
- 3. コロニーで営巣数を数える



## 4. 餌場への飛来状況を見る



## 5. カワウの移動状況を見る

